

慈眼

第26号

発行所
唐津市西十人町127
法蓮寺内

TEL 0955-72-2393
FAX 0955-74-4948

日蓮宗佐賀
教化センター

発行責任者
藤山英周

檀信徒研修特集

立正安国を目指して！

《婦人部統一信行会》

四月二十八日、小城市の本山光勝寺にて佐賀県宗務所主催により婦人部統一信行会が開催された。これには、県内各寺院より教師・寺庭婦人・女性檀信徒約百五十名が参加し、開会行事に引き続き講演・和讃研修が行われた。

午前中の講演には、大分県妙経寺住職建光行上人より、女性の特性を生かした家族や信仰へのアプローチについてのお話があった。ご自身の幼い頃の事に触れられ、次のような逸話を紹介された。学校に友人が、芋を弁当として持ってきたことがあった。その芋が、弁当箱の蓋を開けた途端、床に転がり先頭になって上人が笑ったそうである。普段は優しい担任の先生が、涙をいっぱいにためて叱られた。また家に帰ってからは、同様に母親からも涙ながらに叩かれたそうである。二人の涙こそが、仏性（仏様）である、日常の生活の中で私達は本来、自然と優

しさを身につけることができるのだが、余りにも現代社会は多忙を極め、心の中の仏性を育む事が出来ない人が多い。日常の中で、個人の幸せではなく全体の幸せ、今の幸せでなく未来の幸せを考え信仰に励んで欲しい。日蓮大聖人「二陣三陣続けよかし」とお示しの通り、お題目修行をお勧めされ講演を結ばれた。



《寺院総代統一信行会》

七月二日、小城市の本山光勝寺にて佐賀県宗務所主催により「寺院総代統一信行会」が開催され、県内各寺院より教師・

総代約百五十名が参加し、講演・唱題行等が行われた。

講師に、福岡県實成寺住職 福岡県布教師会長中村雅輝上人を迎え、「ご本尊」についての講演が行われた。ご遺文「日女御前御返事」をもとに、大曼荼羅列座の佛・菩薩・諸天善神等全て南無妙法蓮華經の光明に照らされ本尊となり、闇の燈の如く導くものである。しかし頂く私達に心から信じる気持ちが必要ならば、その世界に入ることは出来ない。総代として、寺院運営だけではなく信仰においても各寺のリーダーであるよう日々の信心を勧められ話を結ばれた。

《九州教区檀信徒研修道場》

九月五、六日に長崎県川棚・常在寺を主会場に九州教区檀信徒研修道場が開催され、九州各地より百十五名（佐賀県より十五名）が参加した。

はじめに、主催である九州教区長・塩田町学成院住職小寺大誠師より挨拶があり、引き続き講義に入った。講師には、元日蓮宗現代宗教研究所主任 赤堀正明上人を迎え、「今、なぜ 立正安国」と題し、宗門が提唱する『立正安国』お題目結縁運動』の基礎である「立正安国」「お題目」についての講義が行われた。質疑応答の時間がなくなるほどの熱心な講義に心うたれ、参加者の多くは家庭や菩提寺での更なる信心を口にしていった。来年は大分県にて開催予定である。

きやうびん

(かいつぶり)

昨今、再び親殺し、子殺し等の事件が多発しています。普通の家庭の「良い子」といわれていた子供が、ある日突如として親や兄弟あるいは祖父母を殺傷して、しかも家に火を付け行方をくらまし数日後に発見保護される事件でした。

周囲の人達には大変仲が良い家庭、家族思いの「良い子」と映っていました。原因として考えられるのは親子間の些細な心の行き違いです。縁あってこの世で親となり子となり、兄弟となったのです。また人は一人で生きていくものではありません、世の中全ての人々と関わって生きていくのです。今一度「私」と人々との繋がりを考える必要があるのではないでしょうか。

宗祖は「立正安国論」の中に正法が聞けない世の中では、瞋り（いかり）・貪り（むさぼり）・痴か（おろか）・闘い（たたか）の四つの悪い精神ばかりが増えて善心は減り衰え、人々は生死の迷いの河、すなわち無明と苦悩の世界へ落ちるとされています。

日本の政治の中核に間違った法を信じる人達が関わっています、今こそ正しい法を信じ「仏の国」とせねばなりません。

【特集】

《六老僧》

日蓮大聖人の直弟子である六人のお上人様の生涯をたどります。
今回は佐渡阿闍梨日向上人です。

《佐渡阿闍梨日向上人》

日向上人は建長五年(一一五三)、上総国藻原(現在の千葉県茂原市)で生れました。しかし一〇歳の時重い病に罹り、薬石の効なく、そこで父母は安房の千光山に虚空蔵菩薩を祈り、もし助かったならば出家させようと誓ったところ、たちどころに治ってしまいました。そこで比叡山高乗院に投じましたが、文永元年(一二六四)日蓮大聖人が安房に帰って母を見舞った折、日向上人の父実信が大聖人の父重忠と友人である縁によって大聖人と師資の契を結び、翌年使を遣わして日向上人を召し返し、大聖人の下に投じたといえます。時に日向上人は一三歳でありました。日向上人は日蓮大聖人に常隨給仕して行学に励み、論義第一と言われました。大聖人佐渡流罪中も大聖人に随って佐渡に至り、給仕の誠をつくしたと伝えられます。佐渡流罪赦免後、身延に隠栖した日蓮大聖人は、やがて弟子の育成と檀越の指導に力を傾注していったの

でありましたが、そこで遠方に居住する檀越と大聖人との間を繋ぐ役割を果たしたのが、大聖人から檀越へ、檀越から大聖人へ届けられる書状でした。そしてこのような書状を運び、両者の連絡にあたったのが日向上人らの弟子であります。



藻原寺

日向上人は大聖人の書状の中で「さど房」「さど殿」「佐渡公」と呼ばれておりますが、その書状によって示される大聖人の教えを遠隔地にいる檀越に伝えたりしながら、地方在住の人々を指導する任にあたりました。

建治二年(一二七六)のこと、日蓮大

聖人の師であった道善房が清澄で亡くなりました。大聖人は「知恩報恩」の大切さを述べられた『報恩抄』を著し、大聖人自身は遁世の身でありますので、この時使者として『報恩抄』を携え清澄に赴き墓前に供えて読誦したのが日向上人であるとされています。日蓮大聖人は示寂に先だつ一〇月八日、本弟子六人を定め、日向上人もその一人でありました。大聖人滅後、遺骨を身延山に納め、遺言によって六老僧が交替で守りました。藻原法華堂(妙光寺、今の藻原寺)を根拠地として上総一帯の教化にあたっていた日向上人もほごなく身延に登山し、日向上人が身延と藻原を兼ねて、その経営・教化にあたることになりました。日向上人は身延に住し、藻原妙光寺を丹波公日秀に付してその地の教化をゆだねました。身延山の基礎を固め、身延に有ること二六年、正和二年(一一三三)後事を弟子三位房日進上人に托して退隠し、藻原に余生を送り、翌三年九月三日六二歳をもって亡くなりました。

花と葬儀

木下株式会社
平安閣冠婚葬祭互助会



草苑

佐賀市兵庫町藤ノ木1115
北佐賀草苑 (0952) 30-4040
FAX 30-4043
佐賀市本庄町大字本庄951
南佐賀草苑本庄 (0952) 25-1255
FAX 25-1088

技術本位

佐賀の老舗

信用本位

辻の堂の仏だんや

(株)本庄仏具総本店

佐賀市堀川町(辻の堂) ● TEL 0952・23-2955(代)

いかされる生命(いのち)

今身より仏身に至るまで爾前の殺生罪を捨てて法華寿量品の久遠の不殺生戒を持つや否や持つと三辺。
 『本門戒體鈔』

小食の子供に母親が「残さなくてもつと沢山食べないと、大きくなれないわよ。」と怒っている。私が子供の頃には「お前まだ食べるのか？」とあきれられたものだが、と苦笑してしまう。私達は普段せっつかく自分の身を犠牲にしてまで、私達の糧となつてくれた動物や植物に、感謝の気持ち忘れてる。他の生きとし生ける者は皆、殺した「いのち」を生かしているのに人間だけが「殺す」のである。私達にとって「いのち」とは、何よりもかけがいのない大切なもの。けれども、自分にとって大切なものが、他のとつてもかけがえないものだということを、私達は忘れてしまっている。私利私欲の為だけに、他人を傷つけたり、殺したり、苦しめたりする人は、それがかえって自分自身の「いのち」を殺していることにごどうして気付かないのでしょうか。例えば、同じ食糧であっても、家族や

社会の為に役立とうと、精進する人の糧となる「いのち」は、幸せだ。何故なら、きつとその「いのち」は、それぞれに与えられた環境の中でみ仏の用(「はたらき」)を顕すその人達の「いのち」に同化して久遠の生命を生きる(「成仏」)からだ。しかし、人道にもとる行いをする者に食された「いのち」は、苦しみながらその者の栄養となり、三悪(地獄・餓鬼・畜生)を生きねばならないのだ。数限りない関わりあいとお蔭の中で数限りない「いのち」を戴いて生きる私達だからこそ「いのち」を継いで生きている有難さと、生かされる「いのち」の尊さと、その使命の重大さとを何よりも認識しなければならぬはずだ。食べ物大切にするとするのは「いのち」を大切にすることなのであります。大聖人様がお示しくくださった「久遠の不殺生戒」とは、み仏から頂戴した自分自身の「いのち」を決して無駄にしないことなのであります。

広島団体参拝団御案内

日蓮宗佐賀県青年会では、下記の要領で団参を実施致します。

御誘い合わせの上、ふるって御参加下さい。

- 実施日 平成18年11月15日(水)～16日(木) 1泊2日
- 申込・問合せ 日蓮宗佐賀県寺院・教会・結社
- 旅行代金 ￥35,000
- 団参企画 日蓮宗佐賀県青年会
- 申込締切 10月20日(金)
- 旅行実施 トップツアー株式会社

※各寺院配布の申込チラシを御覧下さい。



手を合わせるころを大切に・・・

山木仏具
 佐賀市呉服元町10-12 23-4308
 〒840-0824 ☎ (0952)

- ・寺院用具一式
- ・前卓
- ・鎗金物
- ・宮殿機具
- ・登高座
- ・佛座
- ・佛壇
- ・佛櫃
- ・佛龕
- ・佛物
- ・佛復
- ・佛天童
- ・宗教絵画
- ・その他
- ・須弥
- ・美術彫刻品
- ・神像用具
- ・佛像彫刻
- ・佛壇
- ・佛龕
- ・佛櫃
- ・佛物

平成18年度・創業83年目、仏壇・仏具・墓石の総合プラザ

光古賀仏壇店

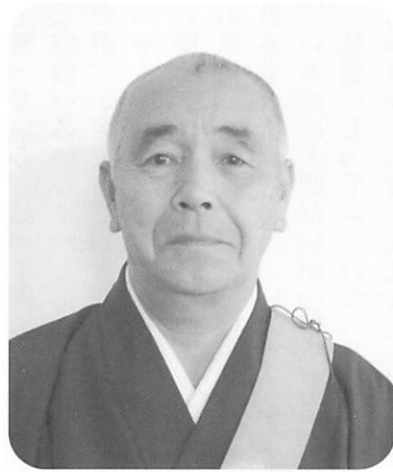
3代目 代表取締役社長 古賀宏昭

本社 〒840-0813 TEL(0952)23-5521
 佐賀市唐人町1丁目2-25 FAX(0952)23-5564

寺院紹介 (二十三)

《光長山 泰教寺》

佐賀市長瀬町五番二十九号



平井照山 住職

〔交通〕

「長瀬町」バス停下車、徒歩五分

〔由緒〕

御開山は松尾山第二十世尊重院日潤上人。御開基檀越は谷口清左衛門尉長光公で家敷の御寄進により現在地に本山松尾山光勝寺佐嘉布教所(本山の佐賀事務所)として寛永年間に開創されました。松尾山直末流、末頭職として住職は貫首様の命により入寺し、院代、執事長、参与等その時代の重要な役職を任せられました。



泰教寺本堂

谷口家の御先祖は鍋島藩御用掛物師として日本最初の鉄製大砲の製造部門を担当し、日本の近代工業の礎を築かれた一人であります。明治維新後は谷口鉄工所を起し、福岡市日蓮聖人・当山安置正観世音菩薩・身延山波木井公等々幾つもの大銅像を铸造しました。日蓮聖人御銅像は明治三十七年、当寺が建立現場事務所となり、全国から沢山のお上人様や檀信徒が集い、無事完成を願い昼夜を問わずお経が唱えられる中、谷口鉄工所で铸造され、何台もの大八車に分けてお乗せし、泰教寺より第二十七世日宏上人のご先導で団扇太鼓を打ち鳴らし、大行



本堂御宝前

列で出発され、東公園に建立されました。その後、第二次世界大戦中の金属回収令により多くの銅像等々が出陣されましたが、日蓮聖人大銅像については当時の全国寺院、檀信徒へ呼びかけ一丸となって、回収回避の大運動を展開し、飛行機二機を献納する等により回収撤回となり、現状保存が叶い、当山は松尾山・博多銅像様とは深い縁で結ばれ、現在に至ります。

〔寺宝〕

御開山書翰・涅槃画像・御本尊は小湊誕生寺日諦・身延山日光・池上本門寺日光・京都本圀寺日唱・村雲日栄・松尾山日慎・松尾山日学等々があります。

〔建物〕

本堂・守護神堂・天神堂・山門・庫裡



仏壇・仏具・寺院用具・寺院納骨堂設計施工
拜む心で尊い品を

梅谷佛具店

TEL 092-271-0456

本店 〒812 福岡市博多区下川端町10-9
-0027 (地下鉄中洲川端駅下車)
7番出入口・博多座裏
支店 〒819 福岡市西区周船寺3-9-4
-0373

0120-39-0456

TEL 092-806-7499

総合葬祭 有限会社 黄城 葬祭会館 光雲閣

小城市三日月町大字久米2134-1
代表 (0952)-73-3938
TEL (0952)-73-2020